

高齢者施設入所者の 服薬管理等支援事業

グループホーム訪問報告（田村昌士）

令和8年6月19日

訪問概要

- 日時：R8.2.20（金） 13：30～14：30
- 訪問先：認知症対応型共同生活介護施設
- 参加者：施設管理者、薬剤師、福祉保健所担当者

目的：施設における服薬管理上の課題を共有し、
薬剤師による支援策を検討する。

施設から挙げた課題

- ① 錠剤を口から出してしまう利用者がいる
- ② 粉碎薬の粉末が分包紙に残る
- ③ 眠剤服用中の利用者が日中のふらつき・転倒が多い。また、眠剤を夕食後に飲ませても良いか？

薬剤師からの提案

- ① 錠剤を粉砕し服薬しやすくする
- ② 分包紙を小さくし残薬を減らす
- ③ 眠剤の中止・減量について医師へ相談する
(眠剤の食後服用は、服用後の転倒リスクと、食事の影響を受け作用が減弱する薬剤がある事もお伝えした)

施設の反応・実施状況

- ✓ 粉碎により服薬が円滑になった
- ✓ 複数薬剤の一包化を開始
- ✓ 眠剤減量について主治医へ相談予定

考察

- 服薬アドヒアランス向上には剤形調整が有効
- 施設・薬剤師・医師の連携が重要
- 転倒リスク評価において薬剤師介入が有用

まとめ

- 施設訪問を通じて具体的な服薬管理課題を把握できた。
- 薬剤師による提案は現場で実践可能なものもあり、服薬支援および安全対策への貢献が期待される。
- 継続的な施設連携が重要。